

■宮田文子 随筆家。華麗奔放な生涯が評判を呼び“不死身の妖婦”といわれた。

みやたふみこ

初の対等条約1888＝ 愛媛県松山唐人町(松山市三番町)で、鉄道省官吏の一人娘に生れる。旧姓中平。

帝国憲法発布1889＝ 1歳：

日清戦争始・1894＝ 6歳：

小学校時代に、母が死去し、継母となった母の妹の溺愛を受けて育ち、
八幡製鉄始・1897＝ 9歳：

教科書疑獄・1902＝14歳：京都に移り、

日露戦争終・1905＝17歳：

満鉄発足・・・1906＝18歳：府立第一高等女学校を卒業。父転勤で上京、流行の女記者をめざすも、父母の強い反対で挫折し、結婚。

1男1女を出産するも、妻はもちろん母親としても不適格で、

大逆事件判決1911＝23歳：

明治天皇没・1912＝24歳：離婚。フランス行きを夢見、

大正政変・・・1913＝25歳：*松井須磨子に続いて坪内逍遙を訪ね、演劇協会に入るも、向かずと断念。子供も実家に預け、政友会系代議士吉植庄一郎が重役の{中央新聞}に入社、人気記者となり、突撃記事で部数を伸ばす一方、吉植との愛人が問題になり、吉植の社長就任とともに讎首され、妖婦伝説が始まる。糊口を失って飛び込んだ天竜寺で、代議士息子の禅学青年と恋に落ち結婚するも、DVに耐えられず、中国に逃亡、

21ヶ条要求・1915＝27歳：

民本主義・・・1916＝28歳：「女のくせに」刊行。

大暴落・・・1920＝32歳：ようやく離婚が成立して、帰国。知人の女流作家の家に遊びに行つて、元祖フランス文学者で作家の武林無想庵と出会い、フランス行きを実現しようと色仕掛け、契約結婚し、既に妊娠した身で渡仏し、パリに住み、娘を出産、フランスの戸籍法に従い仏名イヴオンヌとする。

原敬首相暗殺1921＝33歳：無想庵は何も書かず、金の無くなることは目に見えた状態で、ヨーロッパ豪遊して、帰すると、資生堂洋服部が最新モードの紹介記事をと高給で採用してくれるが、でしゃばり性格が災いして、

関東大震災・1923＝35歳：辞職。洋裁学校を開くも、震災で灰燼に帰し、娘連れ無想庵と再び渡欧、日本料理店を開こうと、

護憲三派圧勝1924＝36歳：豪遊中寄ったロダンのモデル花子が開いたロンドンの日本料理店{湖月}主人川村泉に会いに行き、誘惑、{湖月}パリ支店を開いた上、めばしい客と出かけ、農政学秀才池本喜三夫とも愛人になる。やがて客足途絶え始め、愛人川村の子を中絶した後遺症で店に出られなくなると、借金づけになり、池本と夜逃げ、
治安維持法・1925＝37歳：舞踏家小森敏に目をつけられ舞台にデビュー、美貌の日本女優として名を高め、二人で引っ張りだことなり、絶頂を迎えるも、モンテカルロにダンシング・レストランを開こうという川村と、口論になり、川村に銃撃され頬に重傷を負い、日本スキャンダル史上の有名な事件となる。

共産党事件・1928＝40歳：男遍歴しながらも続いていた無想庵との関係も放棄、

満州事変・・・1931＝43歳：夫と娘を別荘に押し込むと、シベリア鉄道に飛び乗り、帰国。モンテカルロ事件の告白記事を書いて{婦人画報}に売り込む。

国際連盟脱退1933＝45歳：パリに戻ると、無想庵に別居宣言。エチオピア皇太子と黒田子爵令嬢の結婚話の取材に行こうとして、ベルギー在住の貿易商宮田耕三出会い、3年間の契約結婚をする。

芥川直木賞始1935＝47歳：無想庵との離婚届。結局、*宮田との結婚生活は安定したものとなり、

日中戦争始・1937＝49歳：

日米開戦・・・1941＝53歳：

・・・1942＝54歳：

敗戦・・・1945＝57歳：*戦後、モスクワ経由シベリア、旧満州を経て帰国。

夫婦で、大阪・東京でレストラン経営し、

財を成すと、夫婦でベルギーに戻って、{宮田商会}を復活させ、

独立回復・・・1951＝63歳：

その後、ブリュッセル往復18回、フンザ王国・コンゴへも旅行し、

安保闘争・・・1960＝72歳：「スカラベツタンカアモンの宝庫」、

全国総合計画1962＝74歳：随筆「七十三歳の青春」を刊行、華麗奔放な半生が評判を呼び“不死身の妖婦”といわれ、

いざなぎ景気1966＝78歳：*「わたしの白書 幸福な妖婦の告白」を遺して、没した。
「刺青と割礼と食人種の国」。

新潮45鹿島茂「幸福な妖婦」、